佐賀大学芸術地域デザイン学部
小野和美

今回の「発生の場」で見えてきた各人の役割

今回の展覧会に参加して見えてきたことは、展覧会の運営は内部の関係者だけではなく、外部の協力者が必要不可欠であるということだ。例えば、芸術を学んでいる学生がアーティストの展示作業に協力したり、作品を運搬する業者がいたりと、随所にいる協力者がいなければ展覧会は成り立たないだろう。展覧会は決してアーティストと運営スタッフだけで出来上がるものではない。

また、来場者が自由に鑑賞して感じたことを作品に乗せることで、作品は存在する意味が見出だされるのではないかと感じた。来場者は作品に意味を持たせる役割があるのではないだろうか。そういった意味では、鑑賞者も展覧会を作り上げる一員であり、鑑賞者がいなければ、展覧会としての本来の意義が失われてしまうほど重要な存在である。

同じ作品だが、見る人によっては１つ１つ意味の違うものになる。実際に会場では、表層を見る者と深層を見ようとする者のどちらも存在しており、双方尊いものだと感じた。前者は「心が洗われた」と会場を去り、後者は作品からインスピレーションを受けさまざまな所へと発想を飛ばしていた。特に今回は作品近辺にキャプションを付けず、フラットな状態で鑑賞できる空間になっていたことが、鑑賞者の創造性をより引き出しているように見えた。